

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 10月 4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472500614		
法人名	社会福祉法人 しらゆり会		
事業所名	グループホーム長寿苑		
所在地	東広島市西条町馬木1660-2 (電話) 082-425-2000		
自己評価作成日	令和4年8月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3472500614-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年9月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は平成12年3月に開所し、今年で23年目となります。現在要介護1から要介護5の方がご利用されており、入所者の平均介護度は3と、重度者への対応が日々複雑で専門性が必要となっています。また、積極的にターミナルケアを行っており、入院等で退所をされる方はほとんどおられません。現在は新型コロナウイルス感染症予防の為に、ご家族との面会方法を一部変更させていただいております。また、行事による入苑者との外出もほぼストップしておりますが、入所者の皆さんには寂しい思いをされないようにホーム内での行事に気を配っています。最後の時を迎えるその日迄、心穏やかに自然に過ごして頂ける様に職員一同頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム長寿苑は、設立当初から現在まで、数多くの利用者の最期に寄り添い、支えている。これまでの経験をもとに医療連携や緊急連絡の整備を行いながら、地域の介護拠点として求められるニーズに応え続けられるように、外部研修や法人内部の研修を通じて、基本理念に繋がる介護の実現をめざして取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症予防の観点から、外部との交流が制限される中でも、積極的に実習生を受け入れ、事業所内の活性化を図っている。

自己評価	外部評価	項目(かめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の理念「ゆっくり・やさしく・確実に」に沿い、職員それぞれが責任を果たせる様に、日々を振り返り実践につなげている。	法人の基本理念をもとに、グループホームの運営理念を掲げ、地域で必要とされるグループホームの役割を理解し、管理者、職員が共通の認識を持ち成し遂げられるように努力している。職員は利用者が住みやすく、最期は楽しかったと思ってもらえる様に日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在コロナ禍で地域との交流は出来ていないが、本来であれば日常の散歩や買物に出かけたり、お花見や夏祭り・小中学校・保育園の慰問等地域交流を図っている。又、小学校生が慰問できない為、プレゼントを送って下さいました。そのお礼として入所者の皆さんの元気な姿をビデオレターとして送らせていただきました。	行事は縮小して事業所内で行い、積極的交流は自粛しているが、専門学校、大学、教員実習生の受け入れを継続している。これまでに交流があった地域の学校や保育園との関係が途切れないように、直接関わりがなくても連絡を取り合い交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年2回の広報誌の発行や在宅系事業所スタッフによる在宅訪問及びオレンジアドバイザーを置いている。又、地域の集会所や小学校の認知症サポーター養成講座や認知症相談会にも参加し地域の人々に活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を2ヶ月に1度（現在はコロナ禍の為、感染状況をみながら書面又は、会議を開催している。）開催し、事業所・行政・家族・地域の代表者との意見交換し、サービス向上に活かしている。	運営推進会議を書面で行う際は、事前に参加者に意見を聴取し、寄せられた意見について報告書で回答している。事業所内での新型コロナウイルス感染症の予防対策や、認知症検査について質問があり、対策や実施方法について報告を行っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議で意見交換等を行っている。又、介護保険担当者が参加しており、協力関係を維持している。	役場や、地域包括支援センターから認知症サポーター養成講座の講師や、地域の介護相談会が開催される場合は、積極的に協力している。事業所は地域の介護相談拠点として市町の担当者から多様なニーズを持つ方の利用相談にも応じている。	

自己評価	外部評価	項目(かめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内外での研修に参加し、身体拘束禁止委員会を定期的に開催している。又、玄関施錠については建物の構造上フロア出入口が電気錠で施錠されているが誰でも開けられる状態である。	定期的に身体拘束について研修を実施し、正しい知識を習得する機会を設けている。退院直後に身体拘束が必要な状態で入所した利用者について、身体拘束禁止委員会で拘束をしない為に、低床ベッドやマットレスの活用を検討し身体拘束をしないケアの実現に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内外の研修で虐待・拘束の研修を受けている。入苑者の方にスピーチロックや、心理的ネグレクトになる事がないか、日々の介護・自分達の言葉を見つめ直している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内外の研修会に参加し、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、重要事項説明書を用いて説明し、理解してもらえようとしている。入所時の説明以外にも都度相談に乗っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	本来であれば、家族会を定期的に行うが、要望を取り入れるようにしているが、現在コロナ禍で家族会も開催出来ていない。その分、普段から気軽に要望を伝えていただけよう、関係づくりに努めている。又、意見箱を設置し、意見や苦情を受け付けている。	家族へ利用者の状況報告を行う際は、以前よりも詳細に報告するように工夫している。家族の意見は、面会や電話で状況報告を行う際に聞く機会があり、面会や外出に関する意見が多く寄せられている。感染症予防に取り組みながら、家族の希望に添えるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目(かめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定例会議に出席し、スタッフの意見を聞く事でスムーズかつ確実に要望が反映されている。又、職員用の意見箱を設置し職員も自由に意見が言える様になっている。	職員から備品の購入希望などの小さな意見も寄せられ反映している。夜勤の勤務時間を1時間短縮した実例があり、家庭の事情による早退や、短時間勤務、有給休暇や希望休日が取得しやすい職場づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得のための勉強会や定例会議に出席し、個々の意見を聞き明日につながる介護環境を整える努力をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所内の研修に職員を計画的に参加出来る様考えている。又、研修会に参加した職員より全職員に伝達研修により報告する様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	様々な研修会に参加し、他施設の方と交流する機会がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前に事前訪問を行い、本人・家族への聞き取りを実施している。医療関係との連携を図り、本人の既往歴や生活歴をスタッフがよく知った上で、共に生活が出来るよう援助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(かめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前実際にグループホームを見ていただいたり、介護スタッフや看護師と話し、不安を出来るだけ取り除き、理解を求め信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	契約前にグループホームの「見学も出来、本人や家族の望みが何かを対話等でしっかり見極められるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の話を傾聴し、一人一人の人格や個性を尊重するようにしてる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時（現在はガラス越しの面会）や月1回の絵手紙、月末に送付するメッセージカードを活用し、状況報告を行っている。また日常の状態変化については、その都度ご家族に連絡し、必要な場合は協力を仰いでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本来であれば、ご家族や友人が気楽に訪問できるよう、居心地の良い丁寧な対応をするよう心掛けているが、現在コロナ禍で面会制限している。又、今まで使っていた物を居室に置き、安心できる空間を作る様にしている。	新型コロナウイルスの感染状況に応じて、面会制限を強化、緩和しているが、利用者の身体状況等も考慮し、家族と話し合い、回数や時間等は双方が歩み寄り、納得して実施できるように工夫している。自宅に帰り家族と食事をする等、可能な限り今までの関係が続けられる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目(かめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>ユニットで分裂しない様、月1回は合同茶話会を実施し、普段からも行き来をしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>サービスの終わりはグループホーム内で亡くられる場合が殆どである。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>出来る限り希望に沿える様努めている。又、意思表示が困難な方については、ご家族の意向を聴き支援に努めている。</p>	<p>日頃から、利用者の思いは自由に発信している。行きつけの美容院で髪を切りたいとの要望には、事業所に美容師を招いて応えた実例がある。意向の表出が困難な利用者の場合は、生活歴や趣味、家族への聞き取りをもとにケース会議で対応方法を検討している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>本人は勿論、ご家族等への聞き取りを行い、生活歴の把握に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>一人一人の心身状態を、一日一回必ず申し送りでその日のスタッフ全員で確認している。無理のない様、又、画一的な対応にんならないよう、スタッフ間で話し合い対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(かめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	何が本人にとって良い生活なのかを利用者本人・家族・スタッフ間で話しながら、状況に応じて対応出来るよう、きめ細やかな介護計画が作成出来るよう、努力している。	ケース会議内でモニタリングを実施し、水分や食事量、食事形態や、体に負担の少ない動作方法等、利用者の身体状況に応じて、着目する部分を明確にし、日々のケアが行われるよう各専門職の意見を取り入れて計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を個別のケース記録や日誌に記入する。又、体調の変化が感じられた時は、早めに看護師に報告し、指示を受ける様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者本人・家族の希望等、日常の会話の中で把握し、法人内の他事業所と連携をし支援に努めている。又、ケア職員のみで話をするのではなく、医師・看護師等、別の意見を聞き、支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ケアプランの見直し等、都度問題把握している。只、地域資源をどのような形でケアプランへ反映してよいか解らない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所前からのかかりつけ医をそのまま継続したり、本人・家族が納得出来る様、支援している。又、精神科医の隔週の回診、必要時には皮膚科医、歯科医の往診等も行っている。	利用契約時に、利用者家族へかかりつけ医について説明を行い、希望した医師の診察を受けられるように支援している。通院は職員が同行し、必要な情報は口頭又は、文書で提供している。状況に応じて看護師が同行し適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目(かめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	各ユニット毎に看護師がおり日常的に関わりを持っている。又、重度者への対応は24時間対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、治療がスムーズに進むよう、本人の人柄やケア上のポイントについて情報交換をするようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期ができる限り安らかに幸せなものになるように、介護・医療・栄養それぞれのスタッフがチームで支援し、取り組めるよう努力している。	利用開始時に看取りの方針について説明を行っている。重度化した場合は、主治医をはじめ、関わる多職種で話し合い方針を決定している。看取りの研修も定期的実施し、必要時は訪問看護師や施設長が駆けつける体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人外研修に出来るだけ参加する。又、内部研修で看護師の指導のもと、全職員が応急処置・人工呼吸・心臓マッサージ等の方法について教えられている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を行い、避難経路の確認や消火器具の使用方法などを、全介護職員が行っている。	避難救出訓練は、火災時の夜間を想定して、都度、出火場所を変えて実施している。地域の実情として、近隣の社会資源が少なく協力を得ることが困難である為、同一法人の宿直者や同一敷地内の他事業所の職員、地域に住む職員と協力する体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目(かめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の人格を守る重要性を確認している。又、プライバシーの保護にも努めているが、時折損ねる様な言葉かけや対応が見られ、都度、職員同士が声かけを行い、損ねない様に努めている。	法人内で定期的に正しい知識を習得する機会を設けている。職員は、利用者の記録に関わるメモや、日誌の書き方もイニシャルで記入する等の工夫を行いプライバシーに配慮している。不適切と感じられる言葉かけがあった場合に、職員同士で注意しあえる職場作りに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人に出来るだけ声かけを行い、どの様にしたいか？どの服を着るか？また、買物に出かける時は何か食べたいものがあるか？欲しいものはあるか？等を尋ね、自己決定につなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の全体的な流れの中で個々の時間(歌・創作・手芸等)が持てる様に努めているが、時折、職員の都合で利用者に合わせてもらう事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	1日中寝間着でないように、朝必ず着替えをして頂き、身だしなみを整える。寝る前には寝間着に着替えてもらうよう支援している。また、ご家族協力のもと外出し髪染めをする方も居る。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入所者の重度化が進み毎日の食事作りは難しいが、月に何度かおやつ・お好み焼き・ちらし寿司等を手作りする事で楽しく食事を行っている。	副菜は外注しており、温めと盛り付け、炊飯を事業所で行っている。在宅生活と同じようにお酒を飲む事や、刺身を食べる事を楽しみとして取り入れ、個々の能力を活かして調理が行えるように支援している。菜園で収穫した野菜も季節の味として提供している。	

自己評価	外部評価	項目(かめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス, 水分量が一日を通じて確保できるよう, 一人ひとりの状態や力, 習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>医師・看護師・栄養士の下、バランスの良い食事が提供出来ている。水分量については、一人一人毎日チェックを行い、必要量は確保出来ている。又、嚥下が難しい人には、ソフト食・ミキサー食・指示食の中から、その人に合った食事を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように, 毎食後, 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>本人が出来る方は、歯磨きを行ってもらっている。出来ない方は、職員が行い、歯がない方はお茶を使用し口腔ケアを行っている。又、歯科治療の必要な方は歯科医の往診あり。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし, 一人ひとりの力や排泄のパターン, 習慣を活かして, トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々にあった排泄パターンを調べ、テープ式オムツからリハビリパンツへ変更しトイレ誘導を行ったり、リハビリパンツから布パンツに変更する事でその方にあった支援を行っている。</p>	<p>排泄はフローア毎に記録表に記入し、確認を行っている。利用時にテープ式オムツを使用していた利用者が、利用後に状態が改善し、リハビリパンツに移行できた実例がある。歩行状態などに応じて、夜間は居室のベッドサイドにポータブルトイレを設置している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し, 飲食物の工夫や運動への働きかけ等, 個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>あまり薬に頼らない様、水分量を確保したり、乳製品を取ってもらったりと自然排便を心掛けている。又、看護師を話し合い、便秘にならない様努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように, 職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的に毎日入浴出来るが、夕食後の入浴は安全面を考慮し行っていない。本人の希望に沿って入浴、又、高齢の為看護師と話し合いを行い入浴して頂いている。</p>	<p>職員一人に対応することが難しくなった場合は、ケース会議で検討し二人で対応する等、安全に入浴できるように取り組んでいる。1月1日を除く全日で入浴を実施しており、健康面に問題がなければ希望した日に入浴が可能である。菖蒲湯や柚子湯を実施し楽しめるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(かめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	居室の湿温度に気を付けながら 本人に合った空間で安眠・休息 を出来る様努めている。又、個 々での昼寝の時間を設けている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	処方箋に目を通すと共に、看護 師・薬剤師からも情報を得て、 理解を深めている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	毎日、体操を行い、体操終了時 には歌や創作・手芸・ゲームな どを行う。又、本人の昔やって いた事や出来る事を見つけ、洗 濯物をたたんだり、縫物をして むらったり、役割をもってもら う様努めている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族や 地域のひと々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。</p>	現在コロナ禍で外出支援は出来 ていないのが現状ではあるが、 本来、週1回の買物・ドライブ (不定期)等に出掛ける機会を 設けている。又、家族も同行 出来る食事会・ドライブ・喫茶 等も実施している。	日常的に、事業所近くの川沿い を散歩したり、昼食を弁当箱に 詰めて外気浴をしながら敷地 内で食べたりしている。事業 所敷地内には、菜園や果樹が あり、季節毎の実りを収穫して いる。花見は敷地内で実施す る等、この状況下でも可能な 限りの外出を支援している。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	本人が管理出来る方は、小遣 い程度は自分で管理されてい る。又、管理が難しい方は事 務所でお預かりし、何時でも 本人が使える様にしている。		

自己評価	外部評価	項目(かめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	最低でも月1回は様子報告も兼ねて絵手紙書や写真付きハガキを書いてもらっている。又、自分で手紙を書く事が出来る方は、都度手紙を書かれたりしている。電話も希望があれば、何時でも対応している。携帯電話を持たれている方もいらっしゃる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日当たりの良い所には他の方と話しがゆっくり出来る様に机やソファを置き、くつろぎの空間を作り、リビングや居室には、季節にあった絵などを飾っている。又、季節の花を生け、季節感を大切にしている。	廊下や食堂には、生け花や折り紙等、利用者が参加した活動で制作した作品を飾っている。食堂で使う椅子について、高さが合わない場合は個別に購入を提案して食事や、活動が円滑に行えるように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	外が見える廊下には他の方とゆっくり話が出る様に机やソファを置き、落ち着ける様に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室には、家族の写真や馴染みの物等を設置し本人が居心地よく過ごせる様に努めている。また、ご家族の要望によりベッドや箆筒等の配置も決める事もある。変更が必要な時はご家族に事情を説明して了解が得れば変更を行っている。	居室内の収納スペースを活用して、生活導線上に物を置かないように工夫して転倒予防に努めている。居室には、使い慣れた寝具や、趣味の道具を飾るなどして、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室をより解りやすくする為に名札をつけたり、場合によっては、名前を大きく書き解りやすくしている。		

V アウトカム項目(か め) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(3F つる)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念である“ゆっくり やさしく 確実に”の言葉を事業所に掲示し、職員が意識を高め業務に携われるようにすると共に、介護に対して振り返りが行えるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナウイルス感染症の拡大前まで実施していた、春の花見や夏祭り、保育園や小中学校の慰問等中止となり、地域の方と交流機会が持てない状況にある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年に2回法人として広報誌を発行し、施設内の生活状況をお知らせしたり、日々の生活に役立つ情報を発信している。また現在休止中であるが、認知症サポート講座への参加で、日頃の支援の中から具体的に伝達出来るようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為、書面で代替えも含め定期的に運営推進会議を開催し、事業所・行政・家族・地域の代表者と意見交換を行い、参加者からの意見を受け止め、サービス向上に繋げていけるようにしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議で市町の担当者に事業所の実践や取組みを伝え、介護保険保険者との協力体制が維持できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(3F つる)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	個々の職員が外部の身体拘束に関する研修会に参加し、抑制しないケアの実践について理解を深めている。また法人内の職員で形成する身体拘束委員会が中心となり、具体的な禁止事項を周知・理解し、対象となる利用者へ代替えケアを検討する事で、安全に生活できるように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	職員が法人内外の研修会に参加し、高齢者虐待防止に対する意識を高めている。日々の業務の中で、何気ない言葉かけがスピーチロック、心理的ネグレクトになっていないか振り返り、注意喚起が出来るようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内外の研修会で、成年後見制度の権利擁護に関する学習機会を持ち、制度を利用する利用者の支援が容易に行えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、契約書・重要事項説明書を元に入所者や家族の不安や軽減出来るよう丁寧に説明を行い、納得が得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進委員会での意見交換、また家族からの気付きや要望等をいつでも気軽に言ってもらえる関係となるよう日頃から連絡体制を整え、カンファレンス等で職員全体で周知・検討する事で運営に反映している。		

自己評価	外部評価	項目(3F つる)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は定例会議に参加し、職員の意見を聴くことでズムズかつ確実に要望が反映されている。また職員用の意見箱を設置し自由に意見を伝える事が出来るようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	適切な人員配置や給与基準を行えるよう、職員に対して誠意を持った法人運営を心掛けている。職場環境に関する事等悩み事が発生した場合、直接相談できる人間関係の構築に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所内外の研修に職員が計画的に参加出来るよう考え、各部所の主任を通じて研修計画を立てている。又研修に参加した職員は報告書を作成し、伝達研修にて他の職員へ報告する場を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在コロナ禍の為、オンライン研修が主であるが、法人外研修への参加を積極的に呼びかける事で、他の施設の職員との情報交換の場を作り、良い点を取り入れてサービスの質が向上するよう取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前に事前訪問を行い本人・家族と面談、今後の生活に対する心配事や意向等を傾聴し、質問事項への返答を行う事で、安心してサービス利用が出来るよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目(3F つる)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人の思い・家族の願いや思いをしっかり受け止めた上で支援が行えるよう、双方の立場を考えながら言葉かけを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用前の本人・家族の状況から必要な支援を見出し、他のサービスを含めた援助で、早期に新しい環境に慣れていただけるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人と日々の関わり・会話の中から、好きな事・得意 不得意とする事等個性を探り、共に暮らしていく者として、信頼関係が深まるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月1回定期的に家族にメッセージカードを送付し、近況報告を行っている。また日常的に必要な事項は家族に電話連絡を行い、状況を知って頂く事で、支援が受けられる体制にしている、		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナウイルス感染症の拡大で、家族との面会は制限付きで行っている。家族より自宅への外出希望がある場合は、短時間で状況に安全が確認できる時に応じている。		

自己評価	外部評価	項目(3F つる)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の相性を考慮して、共に過ごす空間での席の配置を行っている。寝たきり状態の方も、健康状態に応じて可能な限り離床時間を作り、共に過ごす時間が出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	グループホームでの看取りが殆どであるが、本人・家族から最期の生活場所として良かったと思って頂けるよう支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成に当たり、必ず本人・家族の意向を確認し把握した上で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前に利用していた施設や病院から情報提供を受けたり、本人・家族から聞いた事が、生活に活かしていけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の暮らしの中での観察に加え、毎朝の申し送りや伝達ノートで、一人ひとりの新たな情報把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(3F つる)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人が健康で自分らしく生活していけるよう、本人・家族の意向を反映しながら、モニタリングやアセスメントを繰り返し、関わる職員間で話し合い、現状に応じたケアプランを作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々のレクリエーション活動・行事参加時の状況や、何気ない言動からの気づき等、個別ケア記録で情報を共有し、日々の援助方法に活かしたり介護計画に取り入れている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その時々によりニーズは変化する為、細かい援助内容の変更等、都度支援内容を変更・追加する等行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者の持つ能力を大切に、希望に沿った本人らしい生活が送れるよう支援している。パーマの希望がある方には、訪問理容を活用している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人と家族の同意を得て、事業所と協力医療機関の医師がかかりつけ医であり、定期的な往診を受けている。またその他必要な診療（歯科・眼科・泌尿器科・整形外科）の往診を受けたり、受診介助を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(3F つる)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>介護職員が毎日の健康状態を把握し、看護職員に伝達・相談し、専門職としての助言や対処が受けられるよう連携を図っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は生活状況を中心とした情報提供を行い、治療がスムーズに行え早期退院を目標とし、退院時は入院中の情報提供を受ける事で、退院後の支援に活かせるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合、管理者・主治医から家族に状態報告を行い家族の意向を確認しているが、終末期までサービス継続希望が殆どである。状況に応じて関係職員で支援方法の変更について話し合い取り組んでいる。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>利用者の急変や事故発生時は、適切かつ早急な対応ができるよう、日頃から看護師の指導を受ける事で実践力向上に努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年に2回消防署指導の下、夜間の火事を想定した避難訓練を実施し、改善点等の助言を受けている。近隣の地域の方と一緒にいる事はない。</p>		

自己評価	外部評価	項目(3F つる)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシー保護の観点から、精神的な苦痛なく安心して穏やかな気分で過ごせるよう、言葉掛けには十分注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	創作活動や日常的な作業、(洗濯物や清拭タオルたたみ等) またレクリエーション参加、ショッピングでの購入品、更衣時の衣類等、本人の意思で決定や選定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れの中で健康状態を考慮しながら、一人ひとりのペースに合わせた過ごし方が出来るよう、起床時間等も本人の希望に沿い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人と相談しながら、行事(誕生日会等)のシーンに合わせた洋服を選定したり身だしなみが出来るよう支援している。美容院希望者には、訪問理容で対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	おやつ作りを中心に、本人の持てる力に応じて野菜を刻んだり、混ぜる、のせる、焼く等、職員と共に行っている。また食後の食器洗いやトレイ拭き等も行っている。		

自己評価	外部評価	項目(3F つる)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの食事・水分摂取状況、体重の増減を確認し、栄養不足に至らないよう主治医や看護師と相談し支援している。また嚥下状態が低下した方には、食事形態を変更し対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後の義歯洗浄・うがい・歯磨きの介助を行い、専門的な口腔ケアが必要な方には、定期的に歯科の訪問診療を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>尿・便意の確認、また定期的にトイレ誘導を行い、おむつの使用量が減るよう支援している。また夜間のみポータブルトイレを使用し、安全に自立した排泄行為が出来るように支援している方もいる。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄表記載で排便の間隔を確認し、介護・看護師の連携で、適切な下剤使用からスムーズな排便に繋がるようコントロールしている。又毎日午前中のお茶の時間にヨーグルトを提供し、水分摂取量の確保ができるよう支援している、</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴日や時間帯について、本人の希望を優先し、気持ちよく入浴出来るように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(3F つる)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	夜間の睡眠状態、また健康状態 により、日中の休息時間を作っ ている。また起床・離床時間も、 一人ひとりの生活リズムに応じ た時間で介助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	処方薬の説明書で内容を確認し 、薬の変更がある場合は、伝達 ノートで職員全体が周知徹底出 来るようにしている。また毎食 時の薬を必ず職員二人で確認し 、飲み忘れや誤薬には注意して いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	残存機能を発揮し、今出来てい る事が続けていけるよう“歌う ・読む・書く・手芸 創作”等 で楽しみのある生活を送れるよ う支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける られるように支援している。	家族より外出希望のある方には 、現状のコロナ感染状況を考 慮しながら、短時間かつ自宅内 にて同居家族のみで過ごす場合 は許可を行っている。施設敷地 内の散歩は、本人より希望があ れば気候の良い日に個別で支 援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	家族同意の上、少額を本人手持 ちにしてある方もいるが、現 状で使用することはない。殆ど の方は家族からの依頼で事務所 預かりとし、本人希望の買い 物をした時の、入出金管理を行 っている。		

自己評価	外部評価	項 目(3F つる)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自分用の携帯電話を所持している方は、自由に通信を行っている。また本人希望時には、職員の援助で事業所から家族に連絡を行う事もある。事業所から家族宛に月に1回絵手紙を送付する為、その際に書字が出来る方には思いを記して貰っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は温度調整を行い、壁紙や飾り・行事の写真掲示、生け花等で、清潔感。季節感のある、リラックスして過ごせる場所となるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりの身体状況が違い、利用者同士での会話が困難な方が多い為、職員が間に入り交流が行えるようにしている。リビングの座席は個々の状態を考慮して設定している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の家具や寝具等、使い慣れた馴染みのある物を搬入している方もあり、本人が違和感なく過ごせる環境作りを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室入り口に名札を掲げ、自分の部屋である事の認識が出来ている。また廊下・トイレの手すり設置で、移動や排泄動作が安全に行われている。		

V アウトカム項目(つる) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム長寿苑

作成日 令和4年11月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	今以上に認知症を理解し、入所者一人ひとりを尊重しながらケアを行う事が必要。	一人ひとりの個性を尊重しその方を理解しながらケアを行う。	日々の生活や会話の中で、その方にとって何が大切で何が必要かを見つけ、その人に合ったケアを行う事で、より良い生活をしていただける様に取り組む。	12か月
2	2	新型コロナウイルス感染症の為、外部との交流や外出行事が出来ない為、施設内で出来る行事を充実させる。	施設内で出来る行事を充実させ楽しみを増やして行く。	各階ユニットの合同行事を増やしたり、同敷地内の他事業所の入所者との合同行事を企画する。	12か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。